

# エコ



## 「未来」からの視点で社会を考える



ワークショップの様子。2060年を生きる「仮想将来世代」は法被をまとった=矢巾町提供

住民が「未来人」と「現代人」に分かれたワークショップで、長期計画を考える。そんな岩手県矢巾町の取り組みを8日付朝刊3面の連載「我々はどこから来て、どこへ向かうのか」で紹介した。

2060年の人を代弁する「仮想将来世代」の役割を与えられたグループからは、現世代グループと違う視点の意見が出たという。元は同じく今を生きる住民なのにそんなに変わるものなのか。経験した人に感想を聞いてみた。

「最初はなりきれずに現代と未来を行き来していたけど、やっているとうちに役に入り込んだ」と矢巾美帆さん(41)は言う。

ロボットが進む、車がいろいろな社会になっているかも。いった

ん現代から離れると、想像力を膨らませた独創的な意見が次々飛び出すという。田園風景など地域の価値に着目した意見も目立った。

一方、現世代グループは今の課題を解決する発想で未来を考える傾向があるそう。両グループが対面した場面では、「子どもの医療費を無料化しては」と提案する現世代と、負担を懸念する将来世代で激しい議論になったという。

「今を生きていればそう思う、だけど、と考えるようになる」と斎藤美穂子さん(45)。

未来の人は今の意思決定にかかわれない。現世代との「交渉」の場をつくり、将来の視点を取り込むこの手法は大阪大や高知工大大の研究者グループが協力した。

「発想がこれほど変わるのかと驚いた」と西條辰義・高知工大教授は言う。実践を通じ、手法の可能性をさらに探っていくという。

気候変動などの環境問題、エネルギー、資源、インフラ、年金、財政など世代間の利害が対立する課題は多い。持続可能な社会に向け、将来世代の視点を政策に反映する「将来省」のような仕組みをつくれぬか。そんな提案もしている。

(編集委員・佐々木英輔)

## 食品ロス 減らすには

### 「賞味期限」考える1冊

本来は食べられるのに捨てられてしまう食品が、日本では年間632万トンも発生している。「食品ロス」と呼ばれ、問題となっている。「賞味期限のウソ」は、劣化が比較的遅い食品に表示される「賞味期限」に焦点をあて、

食品ロスが生まれる背景を解説する。賞味期限はおいしさを保つ期限であり、過ぎてもその食品がすぐに食べられなくなるわけではない。しかし、業界の慣習などで期限前に店頭から撤去され捨てられるケースがある。ロスを減らすために、わたしたちはどう行動すればいいのかも提案している。

井出留美著。幻冬舎刊。780円(税別)。



◆「朝日新聞環境取材チーム」のツイッター (@asahi\_kankyo) でエコの話題をつぶやき中

### 海外の

米ダウ工業株30種平均(ドル)	19799.85	(-27.40)
米ナスダック総合指数(ドル)	5552.94	(-2.39)
米SP500種(ドル)	2265.20	(-6.11)
英FT100種株価指数(ポンド)	7151.18	(-47.26)
独クセトラDAX株価指数(ユーロ)	11545.75	(-84.38)
NY為替(銀行間・円)		113.00

### 米国株

先益反めプ週  
行立空落た米週

### 対顧客ドル相場(円)

(三菱東京UFJ銀行)

24日	売り	買い
直物	113.78	111.78

で一進一退の00円割れ自動車メーカーを戒めている。縮んだため、

新  
ブが展示されているショー  
ルームは東京都中央区のメ  
タス  
薪はストーブを買った業者か  
らも購入できるし、ホームセ  
ンターやインターネットでも手に

エコ活の鍵